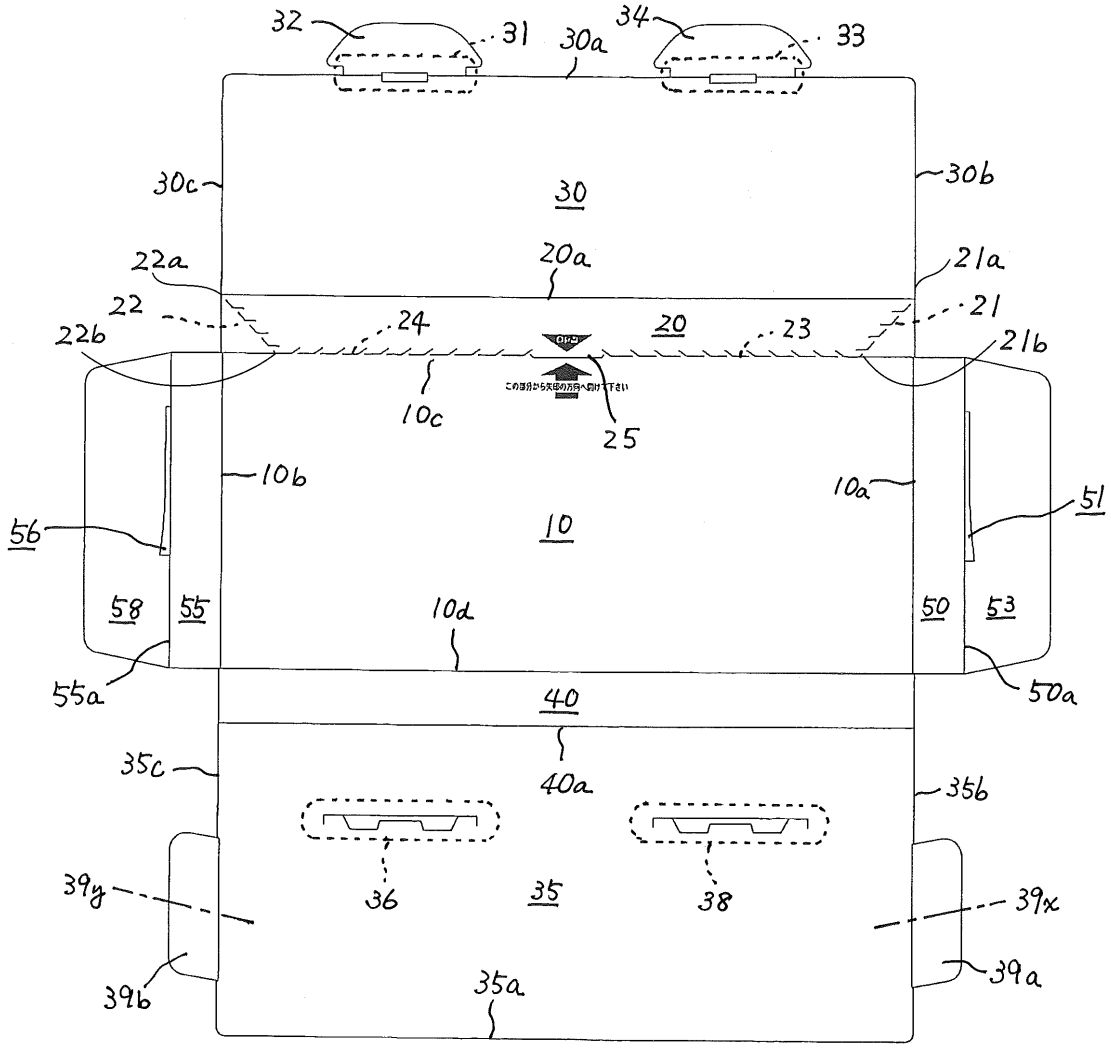
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第６区分
【発行日】平成29年4月20日(2017.4.20)

【公開番号】特開2015-85942(P2015-85942A)
【公開日】平成27年5月7日(2015.5.7)
【年通号数】公開・登録公報2015-030
【出願番号】特願2013-223825(P2013-223825)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｄ　5/66　(2006.01)
Ｂ６５Ｄ　5/54　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｄ　5/66　３１１Ｈ
Ｂ６５Ｄ　5/66　ＢＳＬ
Ｂ６５Ｄ　5/66　ＢＳＤ
Ｂ６５Ｄ　5/66　ＢＲＨ
Ｂ６５Ｄ　5/54　３１１Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成29年3月14日(2017.3.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
略四辺形の底板部と、前記底板部の前方に連接した前板部と、前記前板部を介して前記底板部と連接する前天板部と、前記底板部の後方に連接した後板部と、前記後板部を介して前記底板部と連接する後天板部と、前記底板部の右方に連接した右側板部と、前記底板部の左方に連接した左側板部とを有するブランクを折り曲げて形成される梱包箱であって、
前記ブランクは、前記前天板部の先端部に形成されて該梱包箱を閉止するための閉止爪と、前記後天板部に形成されて前記閉止爪を係止するための閉止スリットと、前記後天板部の右端部辺に形成された右側部閉止爪と、前記後天板部の左端部辺に形成された左側部閉止爪と、前記右側板部の、前記底板部と相対する側に連接した右天板内フラップと、前記左側板部の、前記底板部と相対する側に連接した左天板内フラップと、前記右側板部と前記右天板内フラップとの境界近傍に形成されて前記右側部閉止爪を係止するための右側部スリットと、前記左側板部と前記左天板内フラップとの境界近傍に形成されて前記左側部閉止爪を係止するための左側部スリットとを有し、
前記右側板部、前記左側板部および前記後板部は前記底板部に対し同方向で且つ略垂直に折り曲げられ、
前記右天板内フラップは前記右側板部の折り曲げ方向と同方向に折り曲げられ、前記左天板内フラップは前記左側板部の折り曲げ方向と同方向に折り曲げられ、
前記後天板部は前記後板部の折り曲げ方向と同方向に折り曲げられ、前記右側部閉止爪および前記左側部閉止爪は前記後天板部の折り曲げ方向と同方向に折り曲げられ、
前記右側部閉止爪は前記右側部スリットに係止され、前記左側部閉止爪は前記左側部スリットに係止され、
さらに前記前板部は前記右側板部および前記左側板部と同方向に折り曲げられ、前記後天板部を覆うための前記前天板部は前記前板部と同方向に折り曲げられ、該梱包箱を閉止

するための前記閉止爪は前記後天板部が有する前記閉止スリットに係止され、
上記閉止された該梱包箱を開封するための引裂き線が少なくとも前記前板部に形成されていることを特徴とする梱包箱。
【請求項２】
前記引裂き線は、
一端が前記前板部と前記前天板部との境界の右側端部に位置し、他端が前記底板部の前辺部の右側端部の若干内側に位置する第一の引裂き線と、
一端が前記前板部と前記前天板部との境界の左側端部に位置し、他端が前記底板部の前辺部の左側端部の若干内側に位置する第二の引裂き線と、
前記第一の引裂き線の他端から前記底板部の前辺部に沿って前記前辺部の中央部に向け形成された第三の引裂き線と、
前記第二の引裂き線の他端から前記底板部の前辺部に沿って前記前辺部の中央部に向け形成された第四の引裂き線とで形成されていることを特徴とする請求項１に記載の梱包箱。
【請求項３】
前記右側部閉止爪は、その略中心部を通る線が前記後天板部の右側延長方向において前記底板部の後辺部の延長線と交差するように形成され、
前記左側部閉止爪は、その略中心部を通る線が前記後天板部の左側延長方向において前記底板部の後辺部の延長線と交差するように形成されたことを特徴とする請求項１または２に記載の梱包箱。
【請求項４】
前記右側部閉止爪の略中心部を通る線は、前記右側部閉止爪が前記右側部スリットに係止されるときに前記右側部スリットと略直交するように形成され、
前記左側部閉止爪の略中心部を通る線は、前記左側部閉止爪が前記左側部スリットに係止されるときに前記左側部スリットと略直交するように形成されたことを特徴とする請求項３に記載の梱包箱。
【請求項５】
前記後天板部の縦幅と前記底板部の縦幅とは略同じであり、前記前天板部の縦幅は前記後天板部の縦幅の５０パーセント以上であることを特徴とする請求項１ないし４の何れかに記載の梱包箱。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
＜閉止爪および閉止スリットについて＞
第一の閉止爪３２と第二の閉止爪３４との間隔は、前天板部３０の右端部辺３０ｂと第二の閉止爪３４との間隔に等しい。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４６】
ここで、第一の閉止爪３２の最大幅部３２ａは、第一の閉止スリット３６の主切込線部３６ａの長さより若干広いから、主切込線部３６ａが第一の閉止爪３２の抜け止として作用する。また第一の閉止スリット３６の舌部３６ｔが第一の閉止爪３２の切抜き部３２ｓに係止して、第一の閉止爪３２の、第一の閉止スリット３６からの離脱がより困難になる。第二の閉止爪３４および第二の閉止スリット３８との関係も同様である。かくして天板

部の閉止をより確実にすることができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５０】
　また梱包箱１では、外部から底板部１０や天井壁部加わる力は比較的に高さが低い前板部２０、後板部４０、右側板部５０および左側板部５５に作用する。したがって梱包箱１は変形しにくい。たとえばカレンダーなどを折りたたんで収容したときには、カレンダーなど折り目部は前板部２０および後板部４０の近傍に位置づけられるから、外部から加わった力で収容物に折り目がつくことを防ぐことができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図１】



【手続補正６】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図４

【補正方法】変更
【補正の内容】
【図４】

